

広島大学
教育学部

後援会報

第 25 号
2025 年



世界に認められ社会とつながる

広島大学教育学部

教育学部長 丸山 恭司



日頃より教育学部の取り組みにご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。本年度より教育学部長を務めている丸山恭司です。呉市で生まれ育ち、実家から広島大学に通いましたが、最後は米国のフロリダ州立大学で博士号を修得しました。専門は教育哲学・教育倫理学です。

本会報では、九月の後援会総会以後に教育学部が実施した三つの行事についてご報告いたします。教育学部の学生さんは、授業に加え、こうした行事に参加することを通して、高い視座を得てくれています。

INI総会 昨年十月に二〇二四年度INI総会を開催しました。INIはInternational Network of Educational Institutesの頭文字を取ったものです。世界トップレベルの教育学部の国際ネットワークで、日本からは広島大学のみが加盟を認められています。現在では広島大学の他に、次の十大学によって構成されています。メルボルン大学（オーストラリア）、サンパウロ大学（ブラジル）、トロント大学（カナダ）、北京师范大学（中国）、オース大学（デンマーク）、南洋理工大學（シンガポール）、ソウル大学（韓国）、ケープタウン大学（南アフリカ）、ロンドン大学（英国）、ウィスコンシン大学・マディソン校（米国）です。いずれもその国を代表する教育学部をもっている大学です。

二〇二四年度総会は十月二三日から二五日の三日間で開催され、二三日と二五日は教育学部の前身である広島高等師範学校の

あった東千田キャンパス（広島市）で、二四日は現在の教育学部がある東広島キャンパスで行いました。特に二四日は、各大学の代表者に東広島に来ていただき、本学教育学部の教職員・学生の皆さんと交流していただきました。まず、本学教員による、平和のための教師教育に関する基調講演に始まり、各加盟大学の取り組みを紹介するポスター発表とオープンディスカッション、そして本学の学生・院生、近隣の高校生が加盟大学の学部長・副学部長に英語でインタビューを行うINI Human Libraryを行いました。参加された各大学の先生方からは、広島大学の研究力の高さ、学生さんの積極さに賞賛のお言葉をいただいています。

高等学校教員のための指導力向上セミナー 十二月八日に、二〇二四年度「高等学校教員のための指導力向上セミナー」を対面・オンラインを併用して開催しました。本セミナーの目的は、高等学校教育の現代的課題や教師の専門性を追究するための有益な知見を、教育行政・学校現場・大学のそれぞれの立場から提供し、それらに参加者が共有し討議することによって、高等学校関係者にとって豊かな研修の場を提供することです。

本年度のセミナーは、「高等学校と地域はどのように連携・協働すべきか？―学校の規模や立地、学力等の側面からの再検討―」をテーマとしました。まず、独立行政法人教職員支援機構理事長の荒瀬克己氏に「高等学校と地域はどのように連携・協働すべ

きか」と題した基調講演をしていただきました。そして、これに続けて広島県立加計高等学校から「芸北分校を核とした共学共創コミュニティの実現―地域における学校との連携・協働の意義とは―」と題した実践報告、広島県立日彰館高等学校から「吉舎地区における日彰館高校の取組―「衆縁和合」による「縦のつながり」と「横のつながり」―」と題した実践報告、長崎県立松浦高等学校から「新しい普通科「地域科学科」とは何かを探究する」と題した実践報告がありました。全国から高等学校関係者が集まり、また教員志望の学生がそこに参画することで、学び合う場を提供することができました。

ペスタロッツィー教育賞 一月三十日に第三十三回ペスタロッツィー教育賞授賞式ならびに記念講演会を開催しました。本教育賞は、「民衆教育の父」と称えられるスイスの思想家であり教育実践家であったヨハン・ハインリヒ・ペスタロッツィーの名を冠し、その精神に通じた優れた教育実践者（団体）を顕彰するものです。これまでに、宮城まり子氏（第一回）や黒柳徹子氏（第七回）も受賞されています。

第三十三回となる今年度は、NPO法人ワールド・フレンズシップ・センター名誉理事長であり、「被爆教師」でいらつしやる森下弘氏に受賞いただきました。氏は十四歳の時に爆心から約一・五km地点の学徒動員先で被爆されました。広島大学卒業後、高校教師となり被爆体験を次世代の子どもたちに伝える平和教育に長く携わってこられました。受賞者のお話を直接うかがえる記念講演は教育学部生にとりまして大変有意義なものであったと確信しております。

以上の行事はいずれも教育学部ホームページでも報告をさせていただいています。是非一度、教育学部のホームページを

ご訪問いただきまして、私どもの様々な取り組みをご承知いただけますと幸いです。教育学部を紹介する動画もさらに充実させて参ります。ホームページ左のバーナー「教育学部動画集」からお入りいただけます。ご笑覧ください。



INI 総会



高等学校教員のための指導力向上セミナー



ペスタロッツィー教育賞

変化の時代における

学生生活支援

学務委員会学生生活
指導専門部長

大野内 愛



後援会の皆様におかれましては、日頃より多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

教育学部では、より充実した学生生活を送るため、また卒業後も社会で活躍できる人材を育成するため、学生主体の行事が行われており、教育学部学務委員会の学生生活指導専門部会ではそうした活動の支援・指導をしております。

学生主体の大きなイベントとして、

教育学部祭 (EStorm) があります。

教育学部祭は例年、大学祭と同日に開催しており、教育学部の仲間たち、地域住民の皆様や子どもたちに楽しんでもらえるような模擬店やステージ企画が学生たちによって実施されるといった大変盛り上がる行事です。運営にあたっては、三年生から選出された実行委員長をトップに据え、一五〇名ほどの学生がいくつかの役割に分かれて活動して参りました。

学生が安心して学べる

環境をつくるために

学務委員会
就職支援専門部長

佐藤 大志



後援会の皆様にはおかれましては、教育学部及び人間社会科学研究科の支援事業に対して、日頃より多大なるご支援・ご鞭撻をいただき、心よりお礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、就職に関する講座・行事も、一部オンラインで開催を余儀なくされていましたが、本年度からは全面的に面での開催が可能となりました。

まず五月には、学校長や教員採用状況に詳しい先生方を講師としてお招きし、「都府県別就職説明会」を開催しました。本年度は久しぶりの面での開催となり、県内外から多くの先生方が来学され、二十一の分科会会場に分かれて、各都府県の採用状況や、求められる教員像についてお話しいただき、学生からの質問に直接答えていただく貴重な機会を設

けた。自分たちで決めたルールを、自分たちで責任をもって守りながら活動している学生たちの姿や、普段から教育学部生として子どもたちの思考や行動を想像しながら学んでいる学生たちが、直接子どもたちと触れ合う生き生きとした姿に、教育学部祭の意義を改めて感じておりました。

しかしながら、今年度は残念ながら例年通りの教育学部祭を実施することが叶いませんでした。年々多忙化する学生生活において、準備が思うように進まなかったためです。そのため、今年度は広島大学ホームカミングデーにおいて、教育学部祭で予定していた、いくつかのステージ発表や出店をさせていただきます。

来年度に向け、学生生活指導専門部会では、これまでの課題を踏まえた教育学部祭の運営のあり方等について、学生たちの議論をサポートしていく予定です。今後も学生一人一人を大切にしながら、よりよい学生生活支援のあり方を模索して参ります。引き続き、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

けることができました。

また九月の後援会総会では、保護者の方々に向けて、就職情報支援資料室の杉原敏彦先生と藤原雅和先生から教員採用試験の最新情報や教育学部学生の就職活動状況、同資料室による学生に対するサポートとその積極的な活用についてお話しいただきました。

そして十二月には、「本学出身者等による教職ガイダンス」を開催しました。五月の「説明会」が三、四年生対象であるのに対して、こちらは一、二年生向けのガイダンスで、小中高の学校現場で活躍する卒業生をお迎えして、教職の魅力や課題について、ご自身の経験を踏まえて語っていただきました。

昨今、教育をめぐる環境は厳しくなる一方と報道されていますが、講師の先生方のお話は、そのような現状を憂えつつも、何事も前向きにとらえて、子どもたちの成長を見守ろうとするあたたかいまなざしがうかがえるものであり、学生たちも熱心に耳を傾けておりました。

これからも本学部・研究科においては、学生たちが将来のことを不安に思うことなく、安心して大学での学びを深められるよう、さまざまな場を提供できるよう努めてまいりますので、後援会の皆様には、引き続きのご支援を、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

第二十五回後援会総会

第二十五回後援会総会が九月十四日（土）に教育学部で開催され、全国より多くの保護者の皆様が来校されました。

総会の内容は、次の通りです。

挨拶

- 一、瓜生八百実後援会長
- 二、丸山恭司教育学部長

役員の紹介（敬称略）

- 会長 瓜生八百実
副会長 竹田 史朗
監事 大塩 俊
岡本 秀隆
理事 西川 芳幸
高次 薫
住川 誠
大中 正樹
佐橋 貴子
和田 愛子
吉田 啓二
高松 秀樹
津々野 悟
藤岡 悦子
瀬戸 貴彦（新任）
駒口 晃子（新任）
佐々木裕子（新任）
吉原 将人（新任）

議事一 令和五年度決算について

事務局から決算報告書に基づいて収入・支出状況の説明がありました。続いて岡本監事から決算報告に

ついて適切かつ正確に処理されている旨の報告があり、承認されました。（次頁に掲載）

議事二 令和六年度予算について

役員会作成の原案について事務局から説明があり承認されました。（次頁に掲載）

その他

学部長より、コロナ禍で各種事業が縮減された影響により増加した前年度繰越金を有効活用する方策として、すべての学生に還元できるような学部内の環境整備の提案及び支援の依頼があり、来年度以降、具体的な予算計画を策定して提案する旨、説明がありました。

総会後

大学からの情報提供として、教育学部就職情報資料室の杉原就職担当客員教授から教員採用試験の早期化の動向や採用状況について、藤原就職担当客



総会風景（丸山学部長より説明）

員准教授から一般企業・公務員の就職状況について説明がありました。

この後、保護者の皆様は、各コースの担当の先生方とともに研究室等に移動し、日ごろ学生を直接指導されている先生方と就学状況、就職、進学などについて、個別相談を行いました。

後援会総会へまだご参加いただいたことのない会員の皆様も是非一度、後援会総会に足をお運びいただき、気軽に指導教員の先生方と懇談できるチャンスをご活用いただければ幸いです。

第三十三回 ペスタロッツィ教育賞

広島大学教育学部では、株式会社もみじ銀行、株式会社中国新聞社の支援を得て、一九九二（平成四）年にペスタロッツィ教育賞を創設し、今日、我が国の極めて困難な教育状況の中で、優れた教育実践を行っている個人あるいは団体を顕彰しています。

第三十三回ペスタロッツィ教育賞は、NPO法人ワールド・フレンドシップ・センター名誉理事長の森下弘（もりした ひろむ）氏が受賞され、一月三十日に学士会館レセプションホールで表彰式と記念講演が行われました。

森下氏は、自らの被爆体験を語るとともに、高校生を対象とした大規模な原水爆意識調査や平和教育の教材・副読本作成などを通じて、高校教師として被爆体験を次世代の子どもたちに伝える平和教育に長く携わってこられました。

記念講演は、中国新聞記者の田中美千子氏との対談形式で行われ、森下氏は、一四歳当時の被爆体験から今日の活動に至るまでの経緯を丁寧に話してくださいました。

大学卒業後、教職に就いてしばらくは、自らの被爆体験を語ることができなかったと聞き、体と心に刻まれた傷痕の深さを感じました。

その後、ご自身の子どもの誕生を機に証言活動を始められ、世界平和巡礼で訪れたアメリカで、トルーマン元大統領との面会やアメリカの教科書で取り上げられている原爆の内容の記述の少なさに触れた経験などから、国内外での平和教育に長くかわるることになったと振り返られました。

森下氏は、九四才の今日まで国内外で証言活動を発信し続けています。そして「人類は愚かではない。決して過ちは繰り返さない。と今も信じている。」「世界は、今また深刻な状況が続いており、若い人たちと一緒にこの状況を押し返すために取り組んでいく。」と



記念講演の様子

の力強い訴えかけに学生たちをはじめとする多くの参加者は、熱心に聞き入りました。

第25回後援会総会において、承認されました令和５年度決算・令和６年度予算は下記の通りです。

令和５年度 決算報告

(単位：円)

収 入		
事 項		金 額
前年度繰越		11,414,900
会 費	保護者会員 【令和２年・３年度生】	
	学部生 5名	74,392
	【令和４年度生】	
	学部生 8名	118,631
	大学院生 0名	0
	【令和５年度生】	
	学部生 283名	4,242,009
	大学院生 12名	82,023
	専攻科生 2名	5,696
	【令和６年度生】	
	学部生 49名	733,631
	大学院生 16名	109,160
	専攻科生 1名	2,848
	賛助会員	
	0名	0
小 計		5,368,390
預金利息		
普通預金		71
合 計		16,783,361

令和６年度 予 算

(単位：円)

収 入		
事 項		金 額
前年度繰越		12,089,838
会 費	保護者会員	
	学部生 345名	5,168,663
	大学院生 28名	191,183
	専攻科生 3名	8,544
	賛助会員	
	0名	0
小 計		5,368,390
預金利息		
普通預金		71
合 計		17,458,299

支 出			
事 項		金 額	摘 要
事 業 費	就 職 開 拓 活 動 費	300,000	135,420
	就 職 指 導 等 経 費	550,000	440,680
	就 職 相 談 経 費	1,800,000	1,707,420
	教育・課外活動経費	500,000	292,807
	国 際 交 流 費	150,000	0
	広 報 活 動 費	430,000	417,584
	図 書 費	150,000	115,644
	雑 費	30,000	0
小 計		3,910,000	3,109,555
運 営 費	会 議 費	80,000	57,250
	通 信・連 絡 費	250,000	285,797
	事 務 費	60,000	61,041
	事 務 処 理 費	1,200,000	1,179,880
	予 備 費	100,000	0
小 計		1,690,000	1,583,968
計		5,600,000	4,693,523
次年度繰越金			12,089,838
合 計			16,783,361

支 出			
事 項		金 額	摘 要
事 業 費	就 職 開 拓 活 動 費	250,000	県教委・企業訪問旅費など
	就 職 指 導 等 経 費	800,000	就職指導講話経費など
	就 職 相 談 経 費	1,800,000	人件費(就職担当教員)
	教育・課外活動経費	500,000	課外活動支援など
	国 際 交 流 費	150,000	留学生との交流など
	広 報 活 動 費	580,000	後援会報など
	図 書 費	150,000	就職関係書籍など
	雑 費	30,000	
小 計		4,260,000	
運 営 費	会 議 費	80,000	役員会・総会
	通 信・連 絡 費	300,000	会員などへの郵送費
	事 務 費	60,000	消耗品購入
	事 務 処 理 費	1,200,000	人件費(専従職員)
	予 備 費	100,000	
小 計		1,740,000	
計		6,000,000	
次年度繰越金		11,458,299	
合 計		17,458,299	

教育実習

●教育実習（小学校）

教育学部 第二類
初等教育教員養成コース 三年

手嶋 高嶺



私は二〇二四年八月二日から十月四日まで五週間、広島大学附属小学校一部三年での教育実習で、実際の児童の様子や先生方の立ち振る舞いの見学や、教壇実習として九時間分の授業をさせていただきました。この教育実習は大学での学びを実践し、深め、自分の教育観について考えることがとても貴重な機会でした。

多くの学びの中で特に印象に残っていることは、授業や学級は目の前の子どもと一緒に作り上げるもの、ということだと思います。以前は、児童の学びのためには、自分が考え用意した道筋にうまく乗せ、理解できるように、指示し問いかけながら活動させていかなければならないと考えていました。しかし実際には、児童は私たちに負けない発想力や思考力を持っており、自分で学び、学級を作る力がありま

した。私が行った授業でも、想定していなかった児童の意見に心から「確かに!」と思われ、授業の着地点が変わることや、私からの投げかけよりも児童同士の気づきの方が互いの考えを深めているようなことがありました。

教材研究を広く深く行い、明確に目標を定めて指導案を練っていくことは大切で、その点についてもまだまだ学ばなければいけません。その上で、児童と一緒に作り上げるという視点も大切にしていきたいと実習を通して思えるようになりました。

この貴重な学びが得られたのは、私たちを温かく見守り、丁寧な指導助言をくださった先生方と、拙い私たちの授業でも熱心に活動に取り組んでくれた児童の皆さんのおかげです。心より感謝申し上げます。



教育実習（小学校）授業風景

●教育実習（中・高等学校）

教育学部 第二類
技術・情報系コース 四年

伊藤 昭碩



私は、二〇二四年九月二日から二週間、広島大学附属東雲中学校で、九月十七日から二週間、広島大学附属福山中・高等学校で、技術の教育実習をさせていただきました。教育実習を通して学んだことの中から、特に印象深かったことを紹介させていただきます。

広島大学附属東雲中学校では、生徒とのコミュニケーションがとても印象的でした。東雲中学校の先生のアドバイスから、授業中に後ろの席の生徒がつぶやいた内容を拾い、それを授業の一部に取り入れる姿勢を意識しました。この対応により、生徒は「自分の意見が尊重されている」と感じ、活発に授業に参加してくれました。こうした柔軟なやり取りが、生徒の主体性を引き出し、より充実した学びの場を作っていると実感しました。

広島大学附属福山中・高等学校では、授業の導入部分が特に印象的で

した。例えば、歯車とトルクについて学ぶ授業では、実際に自動車の模型を動かして見せる工夫を行いました。この実演を通して、生徒たちは視覚的に理解を深め、授業に対する興味を強く引き出せたと感じました。映像や文字だけではなく、実物を使った導入は、生徒の好奇心を刺激し、授業への積極的な参加を促す効果があると実感しました。また、授業後に生徒から「わかりやすかった」と声をかけられた際には、非常に嬉しい気持ちになりました。生徒が「楽しい」と感じながら学べる環境を作るには、実物が見えることが重要だと改めて感じました。

教育実習を経て、生徒の成長を支える環境づくりや授業の工夫の大切さを実感しました。ご多忙の中私たちを導いてくださった先生方、温かく受け入れてくださった生徒の皆さん、本当にありがとうございました。



授業風景

就職情報資料室より

激動する教員採用試験への対応

― 天の恩寵は君にあり ―

就職担当客員教授

杉原 敏彦



一昨年来、教員採用試験（以下、「教採」）のスキームに大きな変化が生じている。

教採はこれまで、四～五月に出願、七月に筆記試験を中心とした一次試験、八月に面接を中心とした二次試験、九～十月に合格発表というサイクルだった。それが今、大枠が激動する時期を迎えている。

ここで「激動」の中身をまとめておこう。

(1) 早期化、(2) 複線化、(3) 共通化である。

(1) 早期化 文部科学省（以下、「文科省」）は、一昨年、二〇二四年に行われる教採一次試験の実施期日を六月一六日の標準日とするよう各自治体に要請した。さらに昨年来、二〇二五年試験の標準日は五月一日にする旨提言している。これらの要請を受けて、自治体の中には一次試験の日程を七月から六月に早期化するところがあったが、さすがに五月実施に踏み切ることを公表した自治体はまだ少ない。その結果、一次試験の実施期日が五～七月に分散

化するという状況も予想される。

(2) 複線化 併せて文科省は各自治体に対して、教採を複数回実施すること、とりわけ大学三年次生で受験できる仕組みをつくることを提唱している。この提言を受けて、三年次生で教採一次試験を受験できるようにする自治体数が二〇二五年度には四十前後にのぼりそうである。三年次での受験制度を、多くの自治体では「チャレンジ受験」と呼んでいる。三年次試験の合格者には、四年次に受験する教採一次試験が免除されるのが一般的なので、そのようなアドバンテージ獲得を目指してチャレンジしてみてはということだろう。

(3) 共通化 教採の試験問題は各自治体で作成され、自治体ごとに問題が異なるのが通例である。上記(1)、(2)と関連して、今後、文科省が準備・提供する試験問題を全国の自治体が利用することも検討されている。想定される問題の種類は、一般教養、教職教養及び専門教養等従来一次試験で実施する学科試験であり、大学入試における大学入学共通テストの役割と同様に、教員になるための「共通一次試験」となる可能性もある。

さて、上記のような大きな変化が進行する中で、教採を受験しようとする学生にとって重要なのは、教採一次試験の実施時期が早まることと三年次で受験できるという変化である。このような変化が急激に起きていることに不安を感じる学生もいるかも知れない。そ

の人たちも含め、特に一、二年次生に言っておきたいのは、早期化じたいは本学学生にとって心配する必要はない、ということである。普段の学修や学生生活を堅実に積み重ねることがまず一番の教採受験準備なのである。

次に、教採受験をすでに決意し、第一志望の自治体がチャレンジ試験を実施する場合、積極的に受験を試みてみよう。準備ができていない、成績に自信がないなど「しない理由」はいくらでも思いつくだろうが、準備不足は誰も同じ。練習のつもりで受けてみて損はない。実際、合格率が九割を超える自治体が続

出している。

いずれにしても、教採受験を決意した人はもちろん、迷っている人も真っ先に取るべき行動は、「就職情報資料室」を訪ねることである！ 就職情報資料室を知っているだろうか。同室では、上記のような取り組みを行っている。しかも、もちろん無償で。この部屋のことを早く知り、活用し尽くすのが一番だ。

最後に、大事なことを教えよう。知ってのとおり教員採用試験の競争倍率は全国どの自治体を見ても今は極めて低い。しかし、教員退職予定人数の今後の推移から見てもこのような低倍率状況は十年は続かない。自治体により濃淡はあるが、これから先数年のことであろう。すなわち、今学生として教採受験の準備をしようとしている君たちは、まさに絶好の機会に巡り合わせたと言える。私は教採を目の前にしている君にこう告げたい。天の恩寵は君にあり、と。この機を逃すのはもったいない、と。

【就職情報資料室が提供する主な就職支援】

- ・豊富な就職関係資料（全国の過去の教員採用試験問題集）の閲覧
- ・これまでの先輩の採用試験受験体験記の閲覧
- ・二人の常駐教員による進路相談
- ・出願書類の添削
- ・小論文の添削
- ・対面での面接練習
- ・集団面接の指導
- ・模擬授業の練習・個別指導
- ・各教育委員会を招いての採用試験説明会の開催
- ・同じ県の試験を受験する学生同士の勉強会（県人会）の組織・指導
- ...etc



就職情報資料室

就職活動体験記

●三年生チャレンジ受験(教員)

教育学部 第三類
日本語教育系コース 三年

安藤 結唯



私は広島県教員採用試験の大学三年生チャレンジ受験に挑戦し、無事一次試験に合格することができました。校種は中学校、教科は国語です。今は、大学四年次に行われる個人面接や模擬授業といった二次試験に向けて準備を進めています。

広島県の大学三年生チャレンジ受験は今年度から新設された受験区分です。三年次に受ける筆記試験に合格すると、四年次に受ける筆記試験が免除されます。私がこの制度を知ったのは二年次の二月です。三年次に一次試験に合格できれば、二次試験の準備が余裕をもって行えると思う、受験を決意しました。

しかし、受験を決意し教授の勉強を始めても、受験日まで半年を切っていることへの焦りや自分の勉強法への不安は拭えませんでした。そんな時に訪ねたのが教育学部の就職情

報資料室です。就職情報資料室には、教員採用試験の参考書や過去問、教授に役立つ雑誌や書籍などがあります。私はここで参考書や過去問を借りて勉強しました。

また、教授に向けて準備を進める中で、支えとなってくださったのが杉原先生です。先生は長年にわたって教育に携わってきた経験や教授に関する豊富な知識をもとにご指導くださいます。私は、出願時の自己アピール文を添削していただきました。先生からのご指導を通して、自分の伝えたいことを明確にすることができました。また、自分では気づかなかった文章の癖を直すことができました。

私は、就職情報資料室を活用したことで一次試験の合格への道が開けたと思っています。教授への準備を進める中では不安になる時も多々ありましたが、その度に先生から励ましの言葉をいただきました。二次試験に向けて、



杉原先生と面談中

また資料室の力を借りながら準備を進めたいと思います。本当にありがとうございます。ございました。

●就職活動報告(教員)

教育学部 第一類
初等教育教員養成コース 四年

池田 誠



試験の「前倒し」や「三年生チャレンジ」の実施など、多くの自治体で今年度から教員採用試験の内容や方法が変更となり、私を含めた多くの学生が試験に対して不安を抱いていました。

その不安の解消や試験対策に役立ったのが「就職情報資料室」です。就職情報資料室には筆記試験対策の様々なテキストや面接対策に役立つ雑誌、先輩方の体験記等が多く所蔵されており、自由に借りて試験対策に活用することができます。「就職情報資料室に行けば、教授の情報をたくさん得ることができる」という安心感をもって試験対策をできたことは本当に恵まれていることだと感じます。

また、教員志望者の就職をサポートしてくださる杉原先生には、本当に多くのことを手助けしていただきました。先生は高校で校長を務められていたり、多くの自治体の教育委員会と積極的に連携をとられていたりするの

で、的確なアドバイスをたくさんいただくことができました。私は特に、先生に願書の添削や面接練習をしていただきました。言葉遣いや現代の教育の動向を踏まえて内容の添削をしてくださることはもとより、先生の経験等をうかがう中で多くのことを学び得ることができました。

さらに、本学には「県人会」という同じ自治体の教員志望者が集まってグループを組み、学生同士で学び合いながら教授対策をするという仕組みがあるのですが、積極的に県人会のサポートもしていただきました。各自自治体に合わせた情報提供をしてくださったりと、グループ単位での面接指導にも応じてくださったりと、柔軟で手厚い支援のおかげで安心して試験対策に取り組むことができました。

私が教授に合格できたのは、杉原先生と就職情報資料室のおかげと言っても過言ではありません。みなさんもぜひ就職情報資料室を活用して、教員採用試験の対策に取り組んでみてください。



県人会の仲間と就職情報資料室で

●就職活動報告(一般企業)

教育学部 第一類
初等教育教員養成コース 四年

篠田 ひなた



私が就職活動を本格的に動き始めたのは、教育実習が終わった大学三年生の十月頃でした。しかし、教育学部で就職活動をしている友人が少なく、他学部の友人が夏インターシップや早期選考に参加していたのを見て、焦りを感じていました。何から始めるべきかもわからず、ただ行動を起こさなければならぬと考え、教育学部の就職情報資料室に足を運びました。そこで企業担当の藤原先生と出会い相談をしたことがきっかけで、最終的に最後までお世話になりました。

初めて面談予約を行い相談した際、自己分析を深めることや、業界全体について幅広く知識をつけることの重要性を学びました。特に、自分が何をしたいのか、また何を避けたいのかという就職活動の軸についてじっくり考える時間をいただきました。そのおかげで、将来像が明確に

なり、その後の本選考でも一貫した軸を持つて臨むことができました。

また、当初の私は、理由もなく教育業界に絞って情報収集をしていました。しかし、「教育に限らず、さまざまな業界について知ることが大切」という先生のアドバイスを受け、他業界についても学び始め、これまで関心がなかった業界のインターシップにも積極的に参加しました。これらの経験や知識は、就職活動中だけでなく、今後の人生においても非常に役立つ貴重なものであると、今改めて実感しています。

さらに、本選考では実践的なアドバイスに加え、精神的なサポートもいただき、自信を持って面接に臨むことができました。無事に就職活動を終えることができたのは、先生の親身なサポートがあったからこそだと思っています。就職情報資料室の皆様、本当にありがとうございました。



就職関連雑誌



就職情報資料室

就職支援

●就職指導講話

教育学部 第三類
国語文化系コース 三年

篠原 結女



国語文化系コースでは毎年秋ごろに「現場の先生を囲む会」が開催されます。これは、同コースを卒業し、現在学校現場や教育委員会で活躍されているOB・OGの方をお招きして、学生に向けてお話ししていただくという企画です。

第一部では、やまぐち総合教育支援センターの杉原宏之先生にご講演をしていただきました。生徒の自己肯定感をあげることの重要性や、学校は児童生徒の中にある、なりたいたい自分と現実の自分の隔たりを解消していくためにある場であるという言葉は特に印象深いものでした。

また、教師としての心構えとして、教育的愛情を備えていることや教科の指導力など、いくつも挙げておられました。その中でも私が特に印象に残ったのは、想像力の豊かさです。学校という組織の一員として、生徒や他の教師に自分の行動がどう影響を及ぼすかを常に考えて行動をとっていくことが教師には必要不可欠であるということが分かりました。これ

らの心構えを心に留めておきたいと思います。

第二部では、お招きした先生方と学生たちで少人数のグループを組み、それぞれが輪になって座談会を行いました。ここでは、学生が教師になるうえで抱えている疑問や不安を質問し、それに答えていただく形で話が進みました。教科書「を」教えるのではなく、教科書「で」教えることに重要性や、教師としての一日の生活など、先生方の具体的な実体験をもとに丁寧に話していただけたことで、日頃抱えていた疑問や不安がすっきりと解消されていきました。また、勤務年数や学校種、学力層の異なる学校に勤務されている複数の先生方と話す機会を得たことで、教師の仕事が臨機応変さと柔軟性が必要な仕事であることの難しさを感じました。しかしそれと同時に、教師という職業が、生徒との一期一会の出会いと成長を見守り続けることのできる、唯一無二の職業であることにも改めて気づくことができました。

今回の「現場の先生を囲む会」を通して、教師になった際の心構えやイメージがより鮮明になり、教師になりたい！という思いが強くなりました。



現場の先生を囲む会

コース等紹介

健康スポーツ系コース

本コースは体育・スポーツに関する知性と実践力を涵養していく中で、「教師」「指導者」「実践者」の立場として資質・能力を存分に高めることができます。一年次は、各種目の基本的な運動技術や知識の習得が授業内で展開されていく中で、「教わる者」から「教える者」に視点を移していくことが重視されています。大学内での学びに留まらず、登山・キャンプ実習やウィンタースポーツ実習といった野外活動の授業も展開されています。そして二年次には一年次で習得した基本的な技術や視点をもちに、実際に授業を作成し、実施する模擬授業の機会に恵まれています。各授業において作成した指導案の添削を先生やTAの方から受けることができるため、「教師」として授業を組み立てる素地が形成されていきます。三年次には二年次までで得た学びをもとに教育実習を行い、理論と実践の往還を行う中で、自身の「教師」としての力量や指導観を磨くことができます。教育実習後には研究室へと配属され、各々がスポーツに関する様々な分野から研究を進めていきます。三年次に主専攻の教育実習があることで、四年次には副専攻の教育実習への参加や、教員採用試験、就職活動といった卒業後のなりたい自分を実現するための時間が豊富なことも魅力の一つと考えています。また、中高の保健体育科の教員免許だけでなく、公認スポーツ指導者や健康運動実践者の資格も取得することができ、教員ではないスポーツへのかかわり方も可能となっています。実際に卒業後は教員だけでなく、公務員や一般就職、大学院進学といった幅広い分野へと羽ばたいています。これからの時代をスポーツで切り開く力が健康スポーツ教育学プログラムに秘められています。



登山・キャンプ実習の様子

教育学部 第四類
健康スポーツ系コース 四年 谷口 悠真

本コースでは、人間生活教育学、食生活科学、衣生活科学の各専門分野があり、日常生活で生じるさまざまな現象や課題を捉え、科学的に説明するための理論を学び、その理論に基づいた知識や技術を習得できます。その習得した知識を生かし、体験的な学びを通して、自身の生活に生かす力を身に付けることができます。また、学んだことを生涯学習や学校教育の場でも活かして、生活の質の向上に貢献できることが本コースの特徴です。

私は近年注目される「ウェルビーイング」が、家庭科に強い関わりがあると考え、卒業研究で「生活体験を通してウェルビーイングを考える」というテーマを追究するために、コースが東広島市と連携して活動している「のん太の家庭科室」を関係スタッフとともに企画運営しました。受講者は、SDGやリベアについて学び、クロスステッチ刺繍やダーニング刺繍などのリベアを体験する活動を実際に行うことを通して、自身の生活や考え方を見直すと共に、生活の質を上げる方法を学ぶことができました。このようなのん太の

家庭科室に関われたことによって、ウェルビーイングについて考える機会もてたことは、自分自身の成長に大変役立ったと感じます。私は、近未来の生活価値をみつめる重要な教科である家庭科の教員になる立場から、自分に来ることをこれから模索し続けたいと思っています。



のん太の家庭科室

教育学部 第四類
人間生活系コース 四年 池田 彩華

コース等紹介

人間生活系コース

コース等紹介

音楽文化系コース

我々なぜ音楽を学ぶのだろうか？
人間とは、音楽とは、何だろうか？

音楽文化系コースでは、この大きな問いのもと、生涯にわたって音楽を愛し、また音楽で何物をも愛する方法を学んでいます。ピアノや管弦打楽器をはじめとした専門の演奏実技や、吹奏楽やオーケストラといったアンサンブル系の授業、音楽教育学や日本音楽に関する講義・演習が行われており、学生一人ひとりの目的に合った、多種多様な授業が開講されています。また、定期演奏会、ピアノ演奏会や室内楽演奏会、オペラ実習の公演など、本コース主催の演奏会の運営は全て学生が主体となって行っています。自らが演奏をしながら裏方の仕事も同時に行うことは正に「二刀流」であり、学生たちは演奏技術のみならず、他者と協働的に関わる姿勢、互いに尊重し合う精神を身に付けることができます。

さて、はるか遠い歴史を振り返ってみても、「人類史上、音楽のない文明はなかった」といわれるように、音楽は常に人間の生活に寄り添い、共に発展・進化してきました。貧困、紛争、気候変動など、国際的に見ても平和とはい

えない現代社会において、今こそ音楽という人間の本質的な営みを止めてはならないと強く感じます。学生たちが音楽を通して親しくなり、共に演奏したり語り合ったりする中で信頼関係を築く姿を見ていると、音楽には他者を思いやる気持ちや平和を希求する心を喚起させ、よりよい世界の創造に寄与する力があると信じてやみません。



第11回室内楽演奏会 本番の様子

人間社会科学研究科 教育科学専攻
教師教育デザイン学プログラム
音楽文化教育学領域 一年 加藤 礼愛

本コースでは、絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学、造形芸術教育学の六つの領域を理論と実践の双方向を通じて専門的に学ぶことができます。一、二、三年次で各領域を基礎から段階的に学び、三年次後期からは最も関心のある領域を選択し卒業研究を行っています。

本コースの学生の多くは、中・高等学校の美術科、芸術科（美術）の教員や美術館の学芸員、デザイナーなど美術に関わる進路の実現を目指し、日々学習や研究、制作活動に励んでいます。

そのため、授業では美術と教育や社会とのつながりについて考え、議論することを大切にしています。さらに、表現活動の実践を通して、美術作品をつくる、感じ取ることの楽しさをより一層実感するとともに、多くの表現技法や表現素材に触れて表現の引き出しを増やし、美術を社会に役立てるための資質・能力を養います。

授業以外の活動としては、主にコース主催の展覧会の開催があります。毎年夏頃には「こでまり展」、秋頃には「秋美展」を開催するのが恒例となっています。ここでは、学生の授業作品や自主制作作品などを展示し、コース以外

の学生や保護者、地域の方などに活動を発表する機会となっているほか、卒業制作展に向けて展覧会の企画・運営能力を高めていく活動にもなっています。また、一年次のオリエンテーションや二、三年次の学外研修では、様々な美術作品や伝統的建造物の鑑賞や見学を行うなど、学外で仲間との交流を深めながら美術に触れる経験ができるのが魅力です。



工芸の授業風景 木箱制作

コース等紹介

造形芸術系コース

教育学部 第四類
造形芸術系コース 三年 大橋 由佳

就職情報資料室より

就職活動は、「前向き人間」に変わることに — それは行動に移すことから始まる —

就職担当客員准教授 藤原 雅和



就職活動を目の前にした学生から、「やりたいことがわからない」、「何に興味があるのかが見えない」という悩みをよく聞きます。現在の新卒採用システムのもとでは、専攻や専門知識にこだわらずに様々な業界や職種にチャレンジができます。

見方を変えれば「自分がどうしたいのか」が分からなければ、就職活動は前に進めない仕組みともいえると思います。

一般的に新卒人材に求められる資質は「自ら考えて行動できること」です。興味がなければ行動することはムリです。自分が何に興味をもてるかを知るためには、日々の学生生活の中で興味を育てることが重要になります。しかし、手近なスマホで時間を費やすことに慣れてしまい、行動を起こすことを面倒と感じる学生が増えていきます。例えば、就職情報資料室を利用する学生へ「この本は面白いとすすめてみる」とする。少しは興味が湧いても、やはり「面倒だ」と切り捨ててしまいます。それが繰り返されて常態化すると、新しいものに興味や関心を持つことが減ります。挙句の果てに、「何をやりたいか?」という答えを見つけれなくなります。

思いつきは、実際に行動に移すことで価値はぐんと上がります。そして新たな行動は、楽観性や自信、更なる興味を生み出していきます。どんな小さな興味でも、「面倒くさい」や「別にやらなくても」の一言で片づけず、まず私は行動に変えていくことが大事ではないかと思います。

学生みなさん、これから就活準備をする中で、自分の新たな面を見つけたり、社会・業界・企業の新たな面を発見したりすることが多くあります。どうぞ、楽しむ気持ちも忘れないでください。就職活動は、今後のキャリアプランを考えるうえでとてもよい経験になります。また、進路に向き合うなかでつらいと感じた時は思い切った息抜きをしてください。そして何よりこの教育学部就職情報資料室は、みなさん一人ひとりが希望する進路選択・就職を実現できるよう、窓口相談をはじめ願書、エントリーシートの添削や面接練習など各種支援をおこなっています。まずは、自分自身としっかり向き合うことから始め、それから少しでも早めに就職情報資料室を訪ねてみてはいかがでしょうか。きっとそこには、あなたにとって「得する」何か有益な情報があると思います。最後にもう一度伝えておきたいこと、就職活動のスタートは行動に移すことです。

この文章を読んでいる今すぐにでも始めてみましょう。



就職情報資料室前で



就職相談中

■ 編集後記

広島大学は昨年二〇二四年に創立七十五周年を迎え、最も古い前身校である白鳥学校が設立された一八七四年から数えますと一五〇周年になりました。「広島大学創立七十五周年記念事業」として様々な催しが開催され、教育学部としても十月の「E4 総会・交流イベント」、十一月の「広大オペラ二〇二四」など、在学生のみならず学内外の多くの方に参加いただきました。

さて、就職情報資料室からの報告の通り、昨今の教員採用試験を取り巻く環境が様変わりしております。そのような状況の中で、教師を目指す学生たちが不安を抱かぬよう、就職情報資料室において正確な情報を収集して、多くの学生にきめ細やかなアドバイスを行っていただいております。

また、第二十五回後援会総会でも丸山学部長から報告がありまして、たように、教育学部のすべての学生が有効活用できる教育環境整備について検討に着手しております。引き続き、教育学部後援会として、高い志を持って入学された学生の皆さんが充実した大学生活を送れるように支援してまいります。今後とも会員の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

● 発行

広島大学教育学部後援会事務局
〒七三九一八五二四
東広島市鏡山一丁目一番一号
(〇八二) 四二四一四六八七